

今大会を顧みて

日本教職員バドミントン連盟
副会長 稲石 一雄

今回は福岡空港から九州自動車道を使って熊本に入りました。空港近くには板付遺跡があり、九州自動車道を入ると水城跡を見ることができるのでこのコースは私のお気に入りです。そして九州自動車道を降りると、そこには江田船山古墳があります。周りを見回すと古墳がいっぱいあります。古代の繁栄とロマンを感じる地域での大会に期待が高まりました。



工藤先生と歸山理事長

教職員大会のレジェンド、工藤勇参先生もお元気で、懐かしくお話をさせていただきました。工藤先生のお話に何度も出てきたのが伊藤基記先生のお名前です。伊藤先生のお書きになった「バドミントン上達法」は高校生の頃に買いました。この本を読めば必ず強くなるといわれたものですが、私は持っているだけなので…。

熊本には再春館製薬所があります。今回のオリンピックでも山口茜選手、志田・松山組の活躍に沸いたことでしょう。今大会の販売ブースでも「あかねちゃん、やシダマツ」のイラスト入りTシャツを売っていました。今回の研修会は再春館製薬所バドミントン部部長の吉住克浩氏による講演で、地元とのつながりを感じられる内容でした。

さて試合についてですが何と言っても熊本勢の活躍です。開催地の利を生かして団体戦フルエントリー、個人戦の参加も多く、団体戦終了時点で1位になっていました。その後の個人戦でも勝ち点を積み、三日目で最終日を待たずに総合優勝を確定しました。5位ながら注目すべき活躍をしたのが京都府です。男性だけの参加で、個人参加点も19点とあまり高くありません。ところが団体戦2種目優勝で、団体戦の勝ち点は1位です。個人戦も高い勝率を示しています。今年1月に地震に襲われた石川県からも多くの選手が参加し、一般女子団体、一般女子単、55歳女子複で優勝するなど大いに気を吐きました。



女性では年齢別種目で熊本県と東京都の選手の名前が多く上位に上がっています。また神奈川県の子澄選手が久しぶりの出場です。女性では最高齢かと思われます。今、女性の種目について検討していますので、皆さん大いに参加をしていただきたいものです。そして千葉県の田中・米本選手ともども末永く出場して欲しいと願っています。

去年は時期的に学校が始まっている地域があり、県として参加できないというところがありました。そのため参加数が少なかったのですが、今年は多くの参加を得ることができました。そのため優勝の予想もつけにくく、去年の優勝者が早めに姿を消すという種目もありました。今年は中高生に補助役員をお願いできましたが、来年はお盆の時期なので参加者に敗者線審をお願いすることになるかもしれません。参加者は審判資格を持っていることが望ましいでしょう。

大会初日午後2時43分、一斉にスマホから地震アラームが鳴り響きました。矢畑レフェリーは中断を指示し、5分近く時間を取って安全を確認してから再開しました。その時の指示、態度、落ち着いた声でのアナウンス、とその処置は立派なものでした。最終日にも試合が始まる前に、参加者に注意を呼び掛けていました。

今大会を成功に導いた熊本県協会・熊本県教職員連盟、その他多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。